

管楽合奏は楽しい会？

No.54 “この演奏会を故・菅原眸先生に捧げます”

2022年5月4日(水・祝)14時00分開演 ティアラこうとう小ホール

グノー (仏/1818～1893)

「小交響曲」全4楽章

(Fl)荒巻 (Ob)楠原/土屋 (Cl)向山/庄子 (Fg)森川/尾作 (Hn)市原/皆川

ノヴァチェク (捷/1860～1929)

「シンフォニエッタ」全4楽章

(Fl)岡添 (Ob)勝又 (Cl)兼氏/庄子 (Fg)尾作/山田 (Hn)皆川/鈴木

ライネッケ (独/1824～1910)

「八重奏曲」全4楽章

((Fl)荒巻 (Ob)土屋 (Cl)兼氏/庄子 (Fg)尾作/山田 (Hn)皆川/萩原

--- Intermission ---

ベートーヴェン (独/1770～1827)

「音楽時計の為のadagio」

(Fl)信澤 (Ob)勝又/土屋 (Cl)庄子/景山 (Fg)阿部/尾作 (Hn)鈴木/市原

ドニゼッティ (伊/1797～1848)

「管楽の為の交響曲」単一楽章

(Fl)信澤 (Ob)楠原/土屋 (Cl)景山/向山 (Fg)阿部/山田 (Hn)萩原/鈴木

ベルナルル (仏/1843～1902)

「嬉遊曲」全4楽章

(Fl)岡添/信澤 (Ob)楠原/勝又 (Cl)景山/向山 (Fg)山田/阿部 (Hn)市原/萩原

出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond & MC)森川 一 (もりかわ はしめ)

法政大学入学後ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を開催。他にオケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰。リード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人代表

(Fl & Cond)岡添 隆(おかぞえ たかし) グノーを指揮

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。普段は某メーカーの会社員の身分のまま東大に駐在し、社会連携講座で代表共同研究員として研究室を切り盛りしている。研究と音楽の二刀流は成り立つ、が信条。アンサンブル・メゾンに所属

(Fl)荒巻 淳(あらまき じゅん)

千葉県出身。1980年東京大学教養学部卒業。中学時代よりフルートを始め、社会人となった後も室内楽やオーケストラで演奏活動を続ける。これまで、フルートを播博、泉真由の各氏に師事。アンサンブルレッスン、マスタークラスなどで多くのフルーティストの指導を受ける。現在、東京アマデウス管弦楽団、都民交響楽団、中央区交響楽団、ちばマスターズオーケストラに所属。

(Fl)信澤達也(のぶさわ たつや)

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、磯辺庄平氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て卒業後は東京アマデウス管弦楽団(2009～2014は団長)で活動。鉄鋼系化学メーカーで永らく研究職を勤めたが現在は特許関係の仕事に移った。終日机に向かう仕事なので運動不足が気になる気になる昨今である。現在、職場のビッグバンドでは何とバストロンボーン兼コンサートマスターとして活動中。

(Ob)勝又来未予(かつまた くみこ)

中学校のプラスバンド部でオーボエを始め、大学以降はアマチュアオーケストラで活動、現在は東京アマデウス管弦楽団 で吹いています。最近、新車を買って浮かれていますようだ。

(Ob)楠原千佳子(くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。大学～大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がザラザラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Ob)土屋英晃(つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルゲリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団、洗足学園音楽大学演奏要員を経て、現在はensemble le creuset、市川文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属、柏市音楽家協会会員。

(Cl & Cond)景山賢嗣(かげやま けんじ) ノヴァチエクを指揮

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、ダンゲダーク管弦楽団に所属。これまでにクラリネットを平林邦男、兼氏規雄の両氏に師事。平日は大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤務している。某コンビニATMの取引中継オンラインシステムを担当
今回これからの管楽合奏は楽しい会?を担うメンバーの一人として、指揮デビューする。

(Cl)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリス代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)庄子穂奈美(しょうじ ほなみ)

1990年生まれ、宮城県出身。中学時代の吹奏楽部にてクラリネットを始め、高校からレッスンに通い始める。クラリネットを千石進、堀川豊彦の両氏に、室内楽を太田茂氏に師事。昭和音楽大学短期大学部卒業。

(Cl)向山尚志(むこうやま たかし)

12歳よりクラリネットを始める。東京大学入学と同時に音楽部管弦楽団に所属、この間にクラリネットを故・浜中浩一氏ほかに師事。1974~2003年まで東京アマデウス管弦楽団に所属。その後仕事で東京を離れた為、当会には2003年の松戸演奏会が最後だったが、2017年の演奏会から復帰する。

(Fg)阿部憲一(あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを光永武夫氏、森正彦氏、日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。大手化学会社に42年勤務し、この3月に退職。音楽を中心に、毎日日曜の生活が始まった。ボケ防止と、健康寿命を延ばすため、体力と筋力の強化も課題。忙しくなりそうである。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)尾作拓郎(おさく たくろう)

神奈川県出身。法政二高等吹奏楽部にてファゴットを始め、法政大学交響楽団を経て、同大学卒業後はシステムエンジニアとして大規模金融システムの開発をする傍ら週末に積極的に演奏活動を行っている。現在、狛江フィルハーモニー管弦楽団に所属。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)山田祐理(やまだ ゆうり)

10歳くらいまでヴァイオリン、中学でユーフォニアム。法政二高吹奏楽部でファゴットを始め、その後法政大学交響楽団、ジュネス等で演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、ナズドラヴィ・フィルハーモニーで演奏するほか、エキストラとして数多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。普段は大学教員(物理化学)として働いている。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Hn)市原秀紀(いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後紆余曲折を経て現在は高分子の研究開発で忙殺されつつ、日曜音楽家としてホルンを嗜む。現在は脇屋俊介、井上華の両氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に大編成のオーケストラで活動。それ以外にもアマデウスのメンバーと定期的に木管五重奏の演奏会を開いたり、ホルンアンサンブル"Strudel Hornisten"を主宰している。

(Hn)鈴木 彩(すずき あや)

埼玉県出身。12歳よりホルンを始める。桐朋学園大学、同大学研究科を修了し、現在は桐朋学園大嘱託演奏員を経て、洗足学園大学演奏要員を勤めている。在学中に京都国際音楽学生フェスティバル、ラ・フォル・ジュルネ 2014、音楽大学合同フェスティバル2015などに選抜され、2016年小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXVI喜歌劇「こうもり」に参加する。これまでにホルンを根岸伊智郎、猶井正幸、田場英子の各氏に、室内楽を佛坂咲千生、猶井正幸、岡本正之、亀井良信、鈴木良昭、嶋崎研三の各氏に師事。

(Hn)萩原裕人(はぎわら ひろと)

中学でホルンと出会い、中高大と学生時代オーケストラで活動。社会人となってからも東京、名古屋、ニューヨークの各地でオーケストラ団体等に参加。現在は東京アマデウス管弦楽団、プラスアンサンブルセレスト等を中心に活動。楽器を始めて20余年、キレのある演奏を目指して精進中。

(Hn)皆川理恵(みながわ りえ)

9歳よりホルンを始める。東京音楽大学音楽学部ホルン科卒業。守山光三氏、冨成裕一氏、湯川研一氏に師事。木管5重奏団アンサンブル・アクアのメンバー。ヤマノミュージックサロン吉祥寺、柏 講師。またフリー奏者としても活動中

皆様もご存知の凶事で、2019年12月の演奏会を以て休止せざるを得ませんでした。管楽器は各方面から目の敵にされ、会場はおろか練習場所の確保もままならない日々が2年半続きました。今年漸く活動を再開し、練習計画を練っていた所に菅原眸先生の訃報がもたらされました。凶事の所為で葬儀もご家族だけでされたご様子。残念至極。先生にはファゴットのみならず、管楽合奏の楽しさを教えて頂きました。最初に演奏するグノーの曲は、半世紀も前に先生がN響の仲間と組織した東京木管合奏団で聴き、取り憑かれた曲です。大学のオケの仲間と最終学年で漸く演奏したのが昨日の事の様です。その後、先生に倣って本格的に管楽合奏を始め、今日を迎えています。先生に指揮して頂いた事も十指に余ります。今回のプログラムにも一緒に演奏した曲が三曲入っています。特にグノーは先生にも思い入れの深い曲の様で、亡くなる直前にハルモニア合奏団という団体で自ら「振りたい」と仰ったそうです。それは叶いませんでしたが、本日は天国の先生に届く様に、そして皆様に楽しんで頂ける様、懸命に演奏したいと思います。そして全てのプログラムを楽しんで頂ければ、この上も無い仕上げです。演奏会の感想など、宜しければ heckelfg@infoseek.jp にお寄せ下さい。

第55回演奏会は下記の会場と日時の予定です。是非次回もお運び下さい
2022年12月17日(土)14時開演 北とぴあ・ドームホール